

令和6年 第5回選挙管理委員会会議録（要旨）

日 時 — 令和6年5月21日（火） 午後2時00分～午後3時30分

場 所 — 高層館12階 選挙管理委員会

出席者 — （委 員）中井委員長、星原委員長代理、松井委員、山口委員
（事務局）小須田事務局長、新家事務局次長、花岡主幹、赤田係長、清瀬係長、澤埜事務職員

（中井委員長）

ただいまより、第5回選挙管理委員会を開催いたします。

本日の委員会の案件は、市長選挙の検証について、そして、その他案件ということになっております。

それでは堺市長選挙の検証について、皆様方と意見交換をしたいと思います。

（新家事務局次長）

今、お手元にお渡しさせていただいている資料は、今までの分をまとめさせていただいたものでございます。1番は概要ということで、なぜこのような選択をしたのかということの初めの部分を書かせていただいております。

昨年の市長選挙において、統一地方選挙と合わせて行うか、もしくは任期満了による単独選挙にするか、ということで、単独選挙とする決定をしたという内容が概要でございます。

2番選挙日程、3番立候補者、4番投開票結果、これらは記載させていただいている通りでございます。5番主な経過、こちらは令和4年4月28日に総務省からの意向調査が始まってからの流れを記載させていただいております。

最終的に6番は、令和4年12月10日の選挙管理委員会の定例会において、市長選挙が単独の選挙による任期満了選挙として6月4日で決定したという内容でございます。そして、それぞれの委員さんの決定した理由を記載させていただいております。

そして、昨年の上村議員の大綱質疑のときに、投票率が低かった市長選挙について、検証を行ったらどうかというご要望を受け、まずは、市長選挙のアンケート調査を実施するようということで、委員会で決定していただき、それについて実施しましたので、4月の定例会で報告させていただきました。それらを踏まえて、まとめていただくという形で、本日の委員会の議題として挙げさせていただいた次第でございます。

（中井委員長）

ありがとうございます。

経過については、概略的に今、説明の通りです。

本日は、まとめの委員会でありますので、改めて事実経過について、委員の方でここは違うのではないか、ここは聞いておきたいということがありましたら、出してほしいと思いま

す。なければ、まとめの方の質疑応答をしたいと思います。

特段ありませんか。

(委員)

なし。

(中井委員長)

それでは、堺市長選挙と統一地方選挙を別で行ったことについて、皆様方から忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

(星原委員長代理)

いいですか。

(中井委員長)

はい、どうぞ。

(星原委員長代理)

今回この中では記入はなかったかと思いますが、アンケート調査の回答者の中で「市長選挙へ行った」という人が7割くらいいました。今回そのような文言は書かれていないでしょうか。

(新家事務局次長)

はい、前はあくまでもアンケート調査のまとめということです。

今回は、全てを網羅した上での検証という形です。

(星原委員長代理)

このようなアンケートをとる場合には、どうしても全てが詳らかになる話ではないので、取りようで変わってくると思いますが、前から私が言っているように、市長選挙の投票日当日、読売新聞が行った出口調査で、投票された人に対して聞いたうち、6割の方が「別日の選挙で良かった」という評価をしています。

そして、全体の投票率は低かったにも関わらず、アンケートに回答した人の中で投票したと答えた割合は、市長選挙の投票率の倍ほどとなっています。ただ、投票所へ足を運んでいる人が真摯に答えてくれているということで、加味することではないと思います。このアンケートをとったことが、当然に次へ活きる話でもないと思いますが、参考にはなると思います。

だから、市長選の総括まとめと言ってしまうと、これが最終の意見と捉えられてしまうかもしれないので、あくまで一つの参考であるというような書き方が必要なのかなと思います。

(中井委員長)

今回の市民アンケートの中でも、やはり 1 億 1000 万円のお金が節約できるのであれば、同日選挙の方がいいのではないかというご意見もあります。アンケートを拝見し、それはよく理解をした上ですけれども、やはり、4 年間の堺市政を委ねていく、船で言うと船頭を委ねていくような非常に堺市民にとって影響の大きな選挙でありますので、候補者のまちづくりに向けた政策や理念を 1 人でも多くの有権者の人たちが理解をした上で投票行動してもらうことが一番大切ではないか、また、有権者自身の投票に参加してもらう意識も高まっていくのではないかというような趣旨のことを、私は繰り返し発言してきました。そのような面から見たときに、どうだったのかということです。

それと、投票率が統一地方選挙よりも落ちている原因は、市長選挙が有権者を悩ませるほどの大きな争点がなかったということもあるかもしれませんし、もう 1 つは、主権者教育への取組が不十分で、有権者の人たちも義務教育時代から十分な主権者教育というものを受けることができないまま有権者になったことが考えられます。

選挙となれば投票に行き、自分の意思表示をしなければならないと、このような有権者としての、あるいは国民としての義務的な感覚が非常に薄いのではないかなと、そのような面が今回の投票率の低さにも表れてきているのではないかなと思いますし、また、これは私自身の反省でもありますけれども、統一地方選挙や市長選挙があるということについての広報が、今までの広報を踏襲したものについてはしっかりと取り組んでいただいておりますけれども、その広報のあり方が十分ではなかったかもしれません。

例えば、堺市内にある工場で働いている人たちが出勤したらよく見えるようなところに、何月何日は統一地方選挙、何月何日は堺市長選挙などを書いてもらい、会社の朝礼のときに「次の選挙は皆さん行くように」と一言触れてもらう。また、小売店の前に適当な場所があればポスターを貼ってもらう、投票を促すような啓発のポスターを貼ってもらうというような取組も、これから必要ではないかなと思います。

そして前回も言いました、親子連れ投票ですね。家族と一緒に投票へ行く、そういった積み重ねを行ってもらう。そうすることで、子どもや孫から言われると、投票所に足を運んでくれるという方も出てくるのではないかなと思います。

ですから、主権者教育にはいろんな形のものがあろうかと思いますが、所管するところの部署も、この主権者教育の今までのあり方、また今後のあり方について十分前向きにご検討いただいて、何十年と長い期間にわたり 1 つの大きな方針として取り組んでいただきたい。これは国民が国の主権者であるという意識を生み出すこと、これが民主主義の根本だと思いますから、そのような面からも取組をしていただくことが求められているのではないかなと思います。

それさえしっかりできたら、投票率は争点あるなしに関わらず上がっていくと思います。そのようなところも、今回のアンケート調査と堺市長選挙を行った場合の関係で、選挙管理委員会としては記載をしておくことも必要ではないかなと思います。

(星原委員長代理)

アンケート結果にもあったように、自治会掲示板に掲出されたポスターは見た割合がかなり高かったですよね。

堺市全体の中で、メインは主権者教育や親子連れ投票ということでの教育委員会、保育所であれば子ども青少年局、工場であれば産業振興局など、色々な関連団体に影響を及ぼすような、市の内部の事務方でプロジェクトチームを作り、例えば、今度の選挙のときにはこのようなポスターを作るので、子ども青少年局では各保育所や通園バスなどに「何月何日に選挙があります」と貼るだけでも、やはり自治会の掲示板と同じように効果があるのではないかなと思います。

今まではポスター掲出を、そのようなところまでは広げてはなかったと思うので、そのようなところに全てが網羅できるような協議会的なもの、そして、その前段で市職員のチームを作っていくというような検討が必要かもしれない。

(中井委員長)

朝のミーティングの時に一言でも選挙について触れていただければ、投票に向けた啓発になろうかと思います。

(星原委員長代理)

堺プレミアム商品券は、近所の喫茶店などにもポスターが貼っていました。

山口さん、スーパーなどには「選挙に行きましょう」というポスターを貼ることはないですよ。

(山口委員)

ないです。

(星原委員長代理)

そのようなところにも協力いただいて、お店の前やレジの前などに選挙の告知ポスターを貼ってもらうようお願いすれば、協力していただけるのではないのでしょうか。

(中井委員長)

市役所の関連部局の担当者に集ってもらい、投票率を上げるための主権者教育に協力してほしいと話をし、時間のある時に検討していただき、取り組んでいただけたらと思います。

自治会の掲示板については、何が貼ってあるのかという意識を通常は持ってもらえないと思います。

(星原委員長代理)

でも、アンケート結果を見ると、自治会の掲示板に掲出しているポスターを見たという方が多かったですね。

(中井委員長)

そうですね。なので、意外に思いました。

(星原委員長代理)

私のところの自治会掲示板では、訃報の連絡や、自治会への寄付などのお知らせなどが貼られています。そこに立ち止まって見ている方はかなりいらっしゃいます。

選挙啓発のポスターも、それらと同じように見ていただいていたのかなと思います。

(中井委員長)

他に意見はありますか。

(山口委員)

メリット、デメリットの話をしていて、最終的に有権者が政策や主張について判断できるのを一番わかりやすくすることを今後も僕らが考えていかなければならないことであり、それはアンケートにも出ていると思いますし、そこが軸なのかなと思います。

(中井委員長)

親子連れ投票は良いですね。効果があるように思います。子どもが連れて欲しいと言ったら、行かないということにはならないでしょう。子どもの勉強にもなりますし。

(星原委員長代理)

選挙とはこういうものだと見せることができますしね。

以前にもこのような議論があったかと思いますが、投票所へ子どもを連れて行ったらだめだというイメージ強かったですね。でもそれはもう一転して、逆になっています。

(中井委員長)

親子連れ投票は、いつからできるようになりましたか。

(新家事務局次長)

おそらく 18 歳に選挙権を引き下げた時です。平成 28 年の参議院選挙くらいからだ記憶しております。

(中井委員長)

まだ新しいんですね。

(新家事務局次長)

はい、まだ新しいです。

(星原委員長代理)

この前、新聞で、期日前投票へ子どもを連れて行くとお菓子や A4 のクリアファイルなどの景品がもらえるという記事が載っていました。

(中井委員長)

松井委員さんはどう思いますか。

(松井委員)

アンケート調査の結果からの総括とすれば、事務局がまとめてくれた内容でいいと思います。

調査の内容から、恣意的に思いを膨らますべきではないです。

(中井委員長)

これについてはどうですか。

(星原委員長代理)

恣意的に膨らますということではなく、今までの議論を踏襲してということですから、それ以上もそれ以下もないわけで、これまで言ってきたことというのは、まとめの中で表示してもいいかなと思います。逆にむしろそのようなものがなければ、そのことが恣意的に外しているというイメージを取られると思います。

(中井委員長)

今までの委員会で統一選挙にするのか、市長単独選挙にするのかという、様々な話し合いをしてきました。その結果、単独選挙ということになりましたけれども、市民へのアンケートの中でもそのことの是非については聞いていますが、今回はその総合的なまとめになりますので、今まで言っていないことを言ったと書くことはだめですけども、今まで発言して、審議を積み重ねてきたことのメリット、デメリットというように、わかりやすくまとめておいた方がいいと思います。それは恣意的ではなく、そのようにしておいた方がいいと思います。

今回の委員会で色々と意見交換をしてまとめ、これは会議録に残りますから、後々の関係者に読んでいただいて、当時の委員はこのような議論をし、実際に選挙を進めたのだなということを理解していただけたらいいと思います。そのまま踏襲するか踏襲しないかは、そのときの委員で決めてもらいます。

なぜそのような判断をしたのかなというところをよく知ってもらうことも大切かなと思います。

それでは、30 分間休憩を取ります。再開は 15 時です。

(中井委員長)

15 時になりましたので、第 5 回選挙管理委員会を再開いたします。

先ほど各委員さんから意見を出していただきましたものを、事務局の方でまとめていただきましたので、私の方で全部読み上げますので、このように変えたらいいのではないかといい点がありましたらご意見を出してください。

それでは「8 まとめ」、2 ページありますけれども、読み上げたいと思います。

まとめ(1)堺市長選挙統一選挙として執行した場合のメリット、デメリット

【メリット】

①投票率の向上が期待できる。

○統一地方選挙は国民の地方選挙に対する関心を高めるとともに、これらの選挙の円滑な執行等を図るため、選挙の期日を統一するものである。

参考：統一地方選挙「平成 31 年 4 月 7 日 49.72%、令和 5 年 4 月 9 日 47.98%」

②選挙執行経費が削減できる。

○選挙期日を併せることで、堺市長選挙を単独で執行した場合と比較して、概算で約 1.1 億円の経費を削減できる。

【デメリット】

①投票所の変更または投票区の再編等の課題がある。

○4 票選挙（知事、府議、市議、市長）となるため、狭隘な投票所については、投票所の変更又は投票区の再編等の実務上の課題解決が不可欠である。

②2 ヶ月間の空白において、選挙で選ばれた市長が職務に就けない

○市長の任期は 6 月 8 日、統一で選挙を行えば選挙日は 4 月 9 日、2 ヶ月間の空白が生じるのは問題であり、民意を反映すべき選挙で選ばれた人が職務に就けない。

③選挙事務の適正な執行

○過去に発生した問題事例を踏まえて全国で選挙事務に係る問題事例が発生している。適正な選挙執行を第一に考える必要がある。

(2)アンケート結果を踏まえて

○今回のアンケート結果から、経費の面等から市長選挙を統一地方選挙として行うことが妥当であると回答する割合が高かった。57.4%。

○しかし、経費抑制等は重要な要素であるが、少なくとも 22.9%の方が、「単独の選挙で良かった」と答えており、それ以外の要素も市長単独選挙にするかどうかについての判断材料として、有権者には重要であることが示唆されているため、「同日実施が妥当であった」と断定するには早計ではないかと考える。

(3) 投票率向上に向けての取組

○今回の投票率は、34.12%と、令和元年の前回市長選（40.83%）と比較して、6.71%減の低い投票率で、過去4番目に低い結果となった。

○選挙は有権者が政治に参加する重要な機会であるため、投票率が高いほど多くの有権者の意思が反映される結果となる。ただしその前提として、有権者に対して候補者の主張、選挙の争点がわかりやすいことが必要である。

○実際に平成25年度の市長選挙では、争点が明確であったことから単独選挙で50.69%の投票率を達成している。他政令市においても争点があれば、市長単独選挙であっても、40%台以上の投票率を記録しているため、単独選挙が投票率低下の要因とならないことを示している。

○一方で、市長選挙毎に明確な争点があるとは限らない。投票率向上という観点でいえば統一地方選挙と同日実施の方が、相乗的に選挙への関心が高まる。このことは、他政令市の投票率が40%後半から50%前半の結果であったことから伺える。

○投票率の向上は重要な命題だが、統一地方選挙と同日実施で問題のすべてが解決するわけではない。「選挙」は、有権者が代表を選び、その意見を政治に反映させるためのものである。とりわけ、首長選挙においては、有権者がそれぞれの候補者の政策や主張について判断できるよう配慮することも大切になってくる。

○投票率向上の取組を考える際には、期日前投票所の増設など、有権者の利便性の向上を図ることで、投票機会の拡充に努めることや、若年層の投票率低下に対して、選挙権を得る前の学生から選挙への参加意識を高めることが重要と考える。選挙管理委員会としては、引き続き主権者教育を通じて若年層向けに啓発の充実を図っていきたいと考える。

○若年層への投票率向上について、幼少期からの主権者教育の取組が重要である。親子連れで投票所に行くことは、政治を身近に感じる貴重な機会となり、将来の投票参加意識が高まる。よって、学校教育にて親子連れで投票所に行くことについての呼びかけをお願いしたい。

○また、現在の若年層についても同様に、投票所へ足を運ぶよう啓発活動が必要である。今回のアンケート結果で出ていたように、自治会掲示板や公共施設に掲示されたポスターで、選挙の実施を確認している方が多かった。保育所、就労先及び、ショッピングセンター等において、選挙への参加を促すポスターを掲示してもらうよう、民間企業等をお願いしたい。

以上の内容の意見を皆さん方から出していただきまして、文書として、まとめていただきました。これについて皆さん方でこうすればいいのではないかという意見があれば出してください。

(星原委員長代理)

デメリット①で、4票選挙（知事、府議、市議、市長）となっていますけれど、この順番でいいのでしょうか。首長、議員の順番で行くと、市長、市議の順番ではないですか。

(新家事務局次長)

知事、府議、市議とあったので、ただ単に市長を後ろにつけただけです。もし4票となるのであれば、星原委員長代理がおっしゃったように、知事、府議、市長、市議という順番になります。

(星原委員長代理)

その順番の方がいいですね。

(中井委員長)

まとめ(1)に、堺市長選挙を統一選挙として執行した場合のメリット、デメリットと書いてあります。

逆に言うと、堺市長選挙を単独選挙でしたときのメリット、デメリットという部分があってもいいですね。そうでなくとも、1つにまとめるのだとすれば、堺市長選挙を統一選挙として執行した場合のデメリットの中に、4回投票しないとイケないので候補者の主義主張がわかりづらいと記載しておいたほうが、読む方にとってわかりやすいのではないかなと思います。これも過去に発言してきたところです。

統一選挙とすると、費用削減はできますが、投票所の関係がどうなるのか、4回投票をすることにより、有権者として候補者の主義主張がよりわかりにくくなるのではないかと、雰囲気は上がるかもしれないですけども、有権者一人一人の立場からしたら、堺の行く末がどうなるのかというところの訴えが届きにくくなるのではないかと思います。これは当初からデメリットとして言ってきましたので、その内容も入れておいた方がわかりやすいと思います。

(星原委員長代理)

以前、委員長の発言の中で、「公約、主張を一人一人に理解してもらうことによって、投票率は大きく上回るかもしれない」というのがありました。

これについて、「選挙管理委員の主な意見」としては記載されていますが、「8 まとめ」のデメリットの中には記載されていません。

(中井委員長)

だから、まとめの部分が1人歩きしているのではないかと思います。

(星原委員長代理)

山口さんも同じようなことを言われていましたよね。候補者の主張、選挙の争点がわかりやすいことが必要だと。

(山口委員)

はい。ただ、「8 まとめ」(3)の丸4つめでは、そのようなことが書かれています。

(小須田事務局長)

投票率の向上は大事ですけども、一方で有権者に対して、候補者の政策や主張をわかりやすくすることも大切だということを記載しております。

(山口委員)

政策や主張で判断できるということは書いていますけれども、デメリットに記載していいと思います。

(中井委員長)

今日の委員会の資料3ページのところで、星原さんと松井さんの発言部分のメリット、デメリットの観点を書いているので、山口さんと私の発言した部分も、デメリットの④として記載した方がわかりやすいのではないのでしょうか。記載するというだけでいいですか。

(委員)

はい。

(中井委員長)

それでは修正をお願いします。

(花岡主幹)

デメリットの④としてではなく、①として記載しましょうか。

(星原委員長代理)

それでいいと思います。

(中井委員長)

まとめのところを修正していただくので、暫時休憩します。

(中井委員長)

それでは暫時休憩しておりましたけれども、委員会を再開いたします。

事務局の方で、先ほどの委員間のそれぞれ出していただいた意見を原稿としてまとめていただきました。先ほどの分と変更したところを、説明していただけますか。

(新家事務局次長)

はい。

先ほど星原委員長代理からおっしゃっていただいた、デメリット②の4票選挙のところで、市議と市長を入れ替えさせていただきました。

そして、デメリット①に、見出しが「市長候補者の主張や争点が理解しにくい」、内容が「選挙が複数になることで、有権者にとって、候補者の主張や争点が理解しにくい。」というところを付け加えさせていただいております。これを1番上にさせていただきました。

(中井委員長)

他は変わっていないですか。

(新家事務局次長)

変わっていないです。

(中井委員長)

わかりました。

先ほどの委員会の皆さん方の意見を、このような形で一部訂正させていただきました。これについてどうですか。皆さんの改めてのご意見をいただきたいと思います。

(山口委員)

これで大丈夫だと思います。

(中井委員長)

星原さんはどうですか。

(星原委員長代理)

まとめの前は経過などがそのまま入るということでしょうか。

(新家事務局次長)

はい。

(中井委員長)

松井さんはどうですか。

(松井委員)

問題ないです。

(中井委員長)

では、長時間になりましたけれども、今回の市長選挙の検証について、経過とまとめは以上の内容でまとめたいと思います。ありがとうございました。

これで、市長選挙の検証についての案件1を終わりたいと思います。

案件2のその他案件は何かありますか。

(新家事務局次長)

特にはないです。

(中井委員長)

長時間ありがとうございました。

それでは、これをもって第5回の選挙管理委員会を閉会といたします。